

# ふらのちいさな旅



## ふうのうちは、どこ？

---

ふうは、ふしぎなまいご。

だって、ジャングルにひとりぼっち。

でも、かたっぽの耳でどうぶつのことばがわかるし、もうかたっぽの耳で、風や草や虫たちのこえを聞きとれる。

「ふう、みずうみにおいでよ」

フラミンゴは、ふうのともだち。

すらりとながい足で、おおぜいのきょうだいがいっせいにダンス。

するとまるで、べに色のお花ばたけ。

おどりつかれたらフラミンゴママが、のどからミルクをだし、くちばしうつしでふうにもものませてくれた。

ふうのうちは、どこ？

---



## ふうのうちは、どこ？

---

「かぞくがいっぱい、いいな...」

ダンスはすてきでママのミルクはあまいのに、フラミンゴのみずうみの水を、こくっこのんでみたら、なんだかしょっぱい。

「ふう、こんやは木のうえでねむろうよ」

オランウータンも、ふうのともだち。

おおきなかた手で、ふんわりふうをだきあげた。

かたうでりょう足で、太いみきをするするのぼり、とりのすみたいな木のえだのいえで、こもりうたを聞かせてくれた。

つきのひかりが、この葉のすきまから、ゆうらゆうら。

オランウータンは、とてもいい声でうたう。

「はじめて聞くのに、なつかしいうた...」

ふうは、どこかにきっとある「じぶんのうち」をさがしてみたくて、たまらなくなった。

## ふうのうちは、どこ？

---

ふうは、ひとりであるきだした。

どこかにある「じぶんのうち」をさがすために。

朝つゆキラキラ、ジャングルはきょうもいい天気。

どんどんいくと、おおきな川が、ながれていた。

鳥にはつばさがあるし、魚はおよげるから、この川をわたれる。

でも、ふうはどうしたらいいのかな。

舟につかえそうな、まるい水草のはっぱが、きしべにプカプカ。

ふうは勇気をだして、はっぱの舟と、木の枝の`かい`で、おおきな川にこぎだした。

ところが、ながれがつよくて、はっぱの舟は、みるみるしずむ。

「だれかたすけて！」

木の枝のかいをにぎりしめ、ふうがさげんだとき

ふうのうちは、どこ？

---





## ふうのうちは、どこ？

---

「よいしょ...」

ながい鼻で、ふうのからだを、くるりとひとまき。

おおきな背中にストンとのせてくたのは灰色のゾウ。

そのままむこう岸まで、ぐんぐん水をわけて、のっしのし。

「おじょうちゃん、あぶなかったねえ」

「ゾウさん、ありがとう。おれいにいっきょく」

ふうは、きしべのアシをおりにとって、たてぶえをつくと、

オランウータンがおしえてくれた「こもりうた」をふきならした。

ゾウは、きもちよさそうに、

鼻で川の水をすいあげ、空にシャワーをふきあげた。

水のつぶの白いきりに、おひさまがあたってキラキラ。

七色のにじが、ふうのからだをつつんだ。

「きれい...」

みたこともない、べにいろの花が、さいていた。

ふうは、ともだちのフラミンゴをおもいだした。

「でも、もうすこしさきまで、ひとりでいってみよう」

ゾウは、ふうのおれいのアシぶえを、鼻でくるり。

じょうずにいきをふきこんで、音をだすれんしゅう。

だんだんとおくなるアシぶえをききながら、

ふうは、ジャングルをあるいていく。どンドン、どこまでも。

ふうのうちは、どこ？

---



ふうのうちは、どこ？

---



Jungle

Fontaine

## ふうのうちは、どこ？

---

ふうの耳は、ふしぎ。風のことばがわかる。

「もっと広いところで、おもいきり走ろうよ」

風は、ふうの体をつつみ、つばさになる。そしてふうをのせ、空へ、みわたすかぎりの草原へ。

青いチョウが、ふうのそばを飛び、おなじ風にのった。

「目をつぶっちゃ、あぶない。アカシアの木にぶつかる」

あわてたチョウの声に、ふうは両うでをのぼし、

ふとい枝にしがみついた。木の葉がさわぎ、

ながれる風は、ふうを、そのまま枝におきざりにした。

「どうしよう、木が高すぎて、おりられない」

「だいじょうぶ、いっしょにいるよ。」

ほかのチョウとはぐれて、ぼくも、ひとりぼっちなんだ」

ふんわり、青いチョウが、まいあがった。高く、高く。

「まって、どこへ行くの」

ふうは、しょんぼりと枝にこしかけ、空をみあげた。

「いっしょにいるって、いったのに」

## ふうのうちは、どこ？

---

涙でにじんだけしきに、遠くぽつり、ノッポのかげ。

ゆうらりゆらり、かげは、首をゆらして近づいてきた。

「ほら、この木だよ。葉っぱにかくれた、あの枝に・・・」

いっしょうけんめい、ふうのいばしょをつげる声がして、

アカシアのこずえに、のっそり、首がのびてきた。

「おや、こんな所じゃ、のどがかわくでしょ、おじょうちゃん」

まつげの長いひとみを、かたほうつぶったのは、キリン。

「たくさん飛んで、ぼくも、のどがカラカラだ」

キリンの耳のまわりで、風にまうりボンのように、

青いチョウが、くるくるひらひら。

ふうは、長い首につかまり、キリンの背中にすべりおりた。

「いずみがあるの、みんなで水をのみに行きましょ」

キリンの肩から、地平線がみえる。

大きなかげが、ゆうらり。小さなかげが、ひらひら・くるり。

ふうのかげぼうしも、いっしょにゆれて...

草原のかなた、いずみの水が、ぎんいろに光った。

## ふうのうちは、どこ？

---

草原に雨がふる。夕やみがおりる。

ふうは、いずみのほとりで雨やどり。

大きな木の幹にぽっかり空いた「うろ」に、もぐりこんだ。

ひざをかかえ雨だれに耳をすませると、まぶたが重くなって・・・

キリンさん、どこ？ 青いチョウは、どこ？

ゾウさん、フラミンゴ、オランウータン・・・みんな、どこ？

どこまで歩いて、ふうのうちは、見つからないよ・・・

木のうろの奥は、ふかいトンネル。

気がつくと、ふうはひとりであるいていた。

あるいてもあるいても、トンネルはおわらない。

ふうは、ふり返った。まっくらだった。

前を見ると、ふかい闇に、ぽつりと白い灯が・・・

それがカプッカプツと、ふしぎな形にひろがって、

やがてコポツと音をたて、ふいに光の窓がひらいた。



ふうのうちは、どこ？



## ふうのうちは、どこ？

---

「やあ、どうも」

光の窓から、とがった鼻をのぞかせたのは、バクの子。

口をモグモグさせながら、黒い目をクルン。

「このトンネル、ちょっとにがいね」

ふうは、びっくり。

「わるい夢は、パリパリかじっちゃえばいいんだ。

出口をつくったから、さあ、おいでよ」

バクの子の黒い体には、白い線や点々のもよう・・・まるで

夜空いちめんの流れ星のように、光ってみえた。

光の窓をくぐると、星あかりがこぼれる、いずみのほとり。

雨やどりした、あの木の下に、ふうは立っていた。

水音にまじって、「こもりうた」が聞こえる。

「かあさんが歌ってる・・・みんな良い夢をみられますように」

すんだ水をおよぐ、かあさんバクの大きなかけ。

「ぼくたちも、およう」

とがった鼻に背中をおされ、ふうは体を水にうかべた。

しずみそうになるたび、バクの子が鼻でおしあげてくれる。

ふうの体をつつむ、いずみの星かけが、きらきらとわらった。